

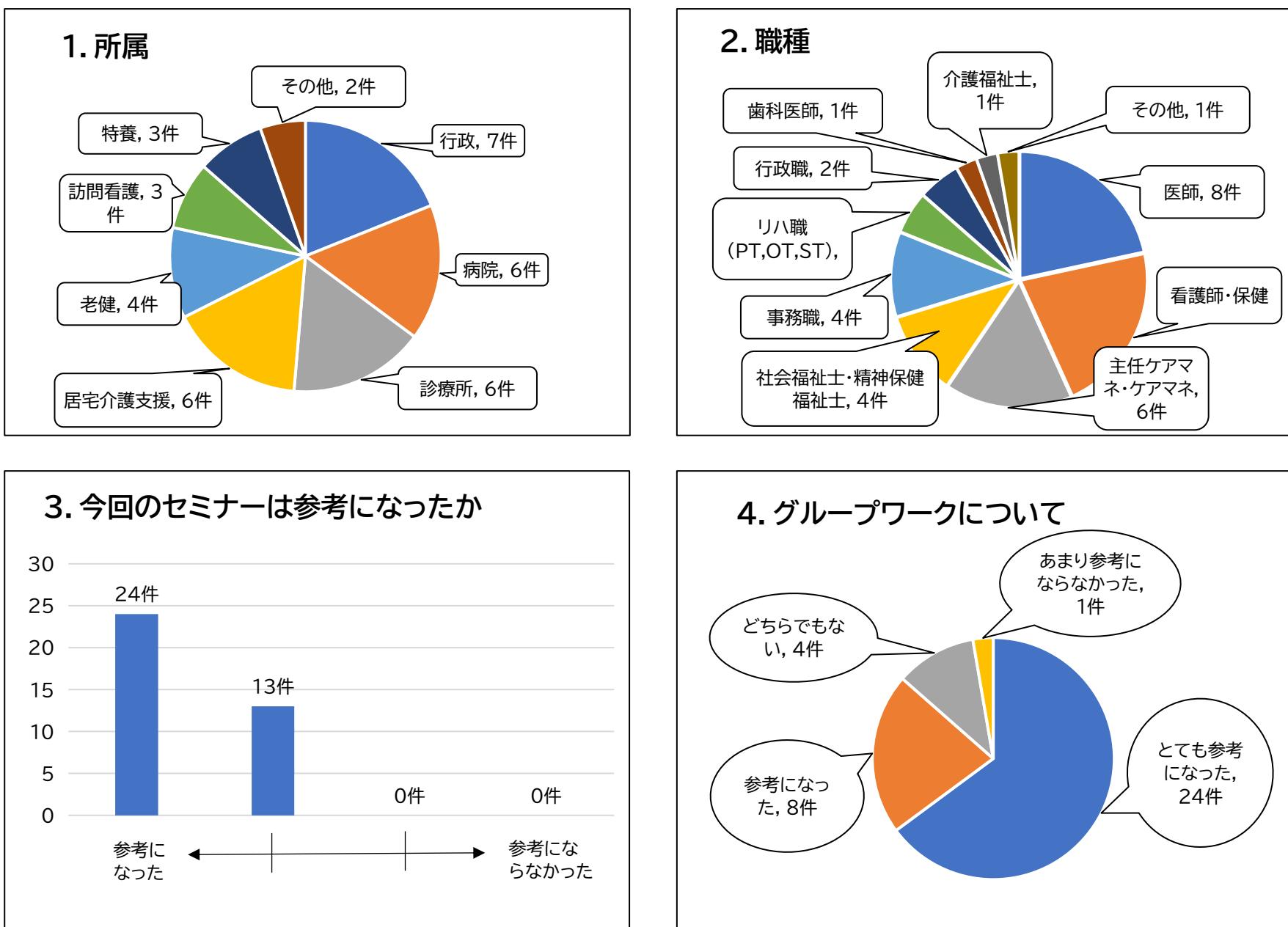
令和7年12月18日開催(12月25日から1月13日までオンデマンド配信)

「高齢者施設における看取りに関する実態調査」報告＆特別企画セミナー アンケート集計表

当日参加:49名

オンデマンド視聴回数:111回(視聴回線:66件)

アンケート回答者:37名



参加者の声

◆ 高齢者施設における看取りの現状について

- 施設での看取りは、医師や多職種との連携が不可欠であり、体制づくりの難しさと重要性を改めて感じました。
- 制度や診療報酬の仕組みについて、現場では分かりにくい部分が多く、今後さらに整理された情報共有が求められると感じました。

◆ DNAR・ACPIに関する気づき

- DNARの確認やACPの話し合いが十分に行われていないことで、現場に大きな負担や迷いが生じている実態を知りました。
- 定期的な確認や、関係者間での共通理解を持つことの大切さを再認識しました。

◆ 救急搬送・緊急対応をめぐる課題

- 高齢者施設からの救急搬送について、施設・医療機関・救急隊それぞれが難しい判断を迫られている現状を知り、非常に考えさせられました。
- NEWSなどの評価ツールを活用することで、判断の目安を共有できる可能性を感じました。

◆ 多職種連携・顔の見える関係づくり

- 多職種それぞれの立場や考えを直接聞くことができ、相互理解を深める貴重な機会となりました。
- 日頃から顔の見える関係を築いておくことが、看取りや緊急時の対応を円滑にするうえで重要だと感じました。

◆ 今後に向けて

- 施設職員向けの看取り研修や学びの場を、今後も継続していく必要性を強く感じました。
- 高齢者が住み慣れた場所で最期まで過ごすために、地域全体で共通の理念を持ち、連携を深めていくことが重要だと思いました。

※本アンケート結果は、参加者の声をもとに趣旨を損なわない範囲で編集・要約しています。